

平成28年5月11日昼前、東京都新宿区J R高田馬場駅近くのビルの壁に大量のミツバチが集まっているところを発見され消防署に通報があった。まもなく警察官や消防隊員が駆けつけ、スプレーなどを使って約2時間かけて駆除を終えたという。現場は一時騒然となったが警察官が交通整理を行っているケガ人などは出なかった。

事件というより、これはただの、ミツバチの分封で(分封については本誌4月号で紹介)都心でも時々起きていることである。ミツバチを驚かせたりしなければ人に危害を加えることなく、しばらくすると跡形もなくどこかに飛んでいくだけであった。ミツバチが集まっているところに霧吹き器で水を噴霧し、燻煙器で煙をかければミツバチは落ち着き捕獲も容易である。

実は銀座ミツバチプロジェクトにも捕獲要請があった。その日は、養蜂作業の最中であつたため「すぐ駆けつけるのは難しいです」と返答すると、「殺虫剤で駆除しますからいいです」という返答で、その後すぐにスプレーでの駆除が始まったようだ。せっかくな集まっていたミツバチも殺虫剤をスプレーされたことで、驚いてその場を右往左往飛び回る。そのため駆除に2時間も費やしたのであろう。

テレビのニュース番組でこの事が報道されるとブログやFB(フェイスブック)などで、いろいろな意見が飛び交っ

ミツバチ目線で緑の街を⑥



ただの分封だった高田馬場騒動 無知による迷惑や誤解はこわい

NPO法人銀座ミツバチプロジェクト 最高顧問 高安和夫

事業紹介

NPO法人銀座ミツバチプロジェクトは、2006年3月から銀座のビルの屋上でミツバチ飼育を開始。ホテル、レストラン、百貨店など銀座の老舗と連携したハチミツ商品づくりや屋上緑化、地域の生産者との交流事業を通して街の活性化に貢献。平成22年6月環境大臣表彰。平成24年4月農林水産大臣より「食と地位の『絆』づくり」選定を受ける。

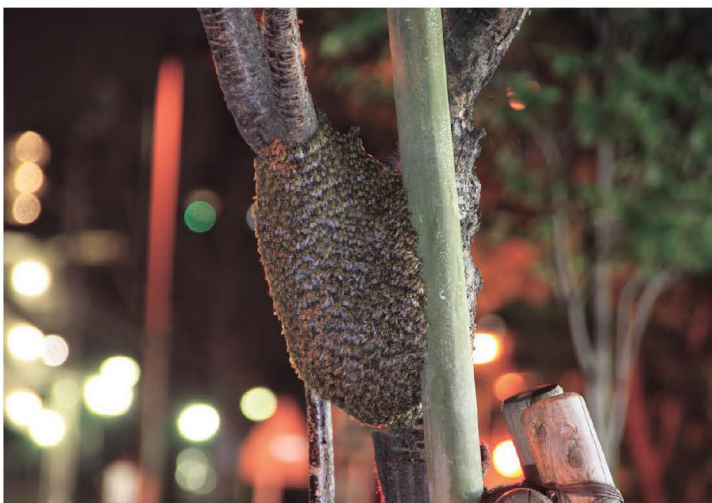
た。「ミツバチを駆除してしまうのは可哀想だ」とか、「駆除はやりすぎ」という意見がある一方で、「そもそも都心でミツバチを飼育していいのか」という意見も出た。

また、「ミツバチの巣は閉鎖空間であり、壁にとりついたミツバチは一時休んでいるだけで、見守っていれば、そのうちに飛んでいく」という専門的な意見もあった。報道されたことで、農林水産省畜産振興課(ミツバチ飼育の部署)から、全国的な都市養蜂での分封蜂捕獲のネットワークづくりの要請もあり、都心でのミツバチ飼育について考える良い機会となった。

ロンドン、パリ、ニューヨークはじめ、世界中の都市でミツバチ飼育が注目を集めている。そして多くの飼育者は趣味の養蜂家である。「ロンドンやパリでは、いくつもの都市養蜂の団体があり、講習会などの養蜂技術を教える仕組みもできている」と、2年前にイタリアで行われた

都市養蜂の国際大会でロンドンの養蜂家が報告していた。日本では養蜂家による徒弟制度的な技術伝承が行われてきたことから、一般の人が参加できるミツバチ飼育講習会は数が少ない。そのため十分な知識や技術がないのにミツバチ飼育を始めて、分封等で周囲に迷惑をかけている人もいる。

今後は、ミツバチの愛好家や趣味の養蜂家向けの飼育技術講習会を充実させることと、一般の人向けに、「都会でのミツバチ飼育」についてPR活動を積極的にを行い、ミツバチ飼育についての知識とミツバチへの理解を広めていくことが課題である。



都心でも時々起きているミツバチの分封